

## Ⅱ. 地域資源のテキスト化に関する作業の進捗状況

担当部署：観光商工課・農林課・水産課・里海推進室

### ○取り組み状況

#### (1) 「きんこ」のテキスト化について

- ・きんこのテキストは平成28年3月に完成したが、このテキストを活用して新たな商品化を進める前提として、安定した生産体制を構築することが必要であるという問題が明確になった。このため、きんこの増産を目的に、芋の栽培から加工までを実践することができる「きんこ塾」を下記のとおり開催し、新たなきんこ生産の担い手の増加を図っている。

11月4日～10日：収穫作業（阿児地区、志摩地区各圃場）

平成29年

- 1月10日：きんこ塾加工作業（越賀方式）
- 1月23日：きんこ袋詰め実習
- 1月24日：きんこ塾加工作業（JA方式）
- 2月 6日：きんこ袋詰め実習

#### (2) 「アカモク」のテキスト化について

- ・三重県水産研究所や三重外湾漁業協同組合と連携して生息範囲や資源量の調査を継続して実施中。
- ・平成28年までの漁獲・出荷・販売の方法について、漁業者、漁協、加工業者等から広く意見を聴取し「生産体制」見直しを行う。意見交換会から得られた情報をもとにアカモク漁獲マニュアルの改訂を行った。
- ・販路は拡大しつつあるものの、漁獲量が少量であることから、付加価値を高めるとともに、志摩の試験操業地区を増やし漁獲量の増加を目指す。
- ・平成29年2月に、早期にアカモクの完熟を向かえる安乗地区においてアカモクの生育調査及びダンボール冷凍保存以外の試験を開始。
- ・市内外の飲食店、加工業販売者と連携し新たな販路を開拓する。
- ・アグリビジネス創出フェア等のイベントに出展し県外にも広く情報発信を行う。
- ・平成28年12月14日から16日の間、東京ビッグサイトで開催されるアグリビジネス創出フェアに参加し、3日間で約600名の見学者があった。
- ・アカモクに関する多くの情報を得ることができた。特に企業等は「アカモクの効能」に興味があり、安定した供給と多量な取引を欲していることが判った。

(3) 志摩ブランドについて

- ・志摩ブランド認定事業者にアンケート調査を事前にし、それに基づき意見交換会を実施した。認定商品の現状について協議をし、志摩市内での志摩ブランドの認知度の低さ、原料不足、後継者不足等課題がいくつかあげられた。
- ・四日市で行われた「みえの食マッチング交流会」に3事業者が参加希望し、出展し、商談をおこなった。

## ○今後の取組み

(1) 「きんこ」のテキスト化について

- ・生産量の確保に向け、きんこ生産の担い手の増加を図ることを目的に、関係団体等と連携しながら、「きんこ塾」の取組を継続し、生産者の確保を図っていく。
- ・また、原料である隼人芋の増産も行いたいため、耕作放棄地再生による生産地の拡大を推進していくことを検討し、支援していくことを目指す。

(2) 「アカモク」のテキスト化について

- ・立命館大学との共同研究において収集したアカモクのデータを基に、栄養面、健康面をクローズアップした内容のパンフレットを作成し市内外へ広く情報発信する。
- ・平成28年8月に「6次産業化調査研究業務委託」を発注締結し、現在、アカモクの成分分析を行っている。パンフレット完成は、3月中旬の予定である。  
パンフレット完成後は、市内外へ広く情報発信する

(3) 志摩ブランドについて

- ・志摩ブランド認定商品 PR として、「高野尾花街道」で認定商品の紹介をする。
- ・平成28年度の志摩ブランド認定審査会を行い、商品を認定する。
- ・志摩ブランド認定事業者との協議で出た課題の解決に向けた検討と支援を行う。